



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学免疫科学研究所業績発表記録(自昭和51年9月ー至昭和52年11月)
Citation	北海道大学免疫科学研究所紀要, 38, 76-78
Issue Date	1978-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/26515
Type	other
File Information	38_P76-78.pdf



第31回(昭和52年11月8日)

山本健一: Macrophage の機能の不均一性.

久世彰彦: 肺アスペルギルス症.

第32回(昭和52年12月6日)

外岡秀一: Poly (ADP-ribose) に関する最近の研究から.

文献: Y. Kanai et al. Nature, 265, 175, 1977.

柿沼光明: 免疫グロブリン遺伝子に関する最近の報告から.

北海道大学免疫科学研究所業績発表記録

(自昭和51年9月一至昭和52年11月)

細菌感染部門

1. 大平昌好・久世彰彦・有馬 純: 結核耐性培地の薬剤力価変動に関する研究.
結核, 51, 95, 1976.
2. 有馬 純・立花キヨ・高橋昭一郎・大平昌好: スライドカルチュア法によるいわゆる“塗抹陽性・培養陰性菌”培養の試み
結核, 51, 95, 1976.
3. 佐々木昭雄・立花キヨ・有馬 純: 放線菌類とその近縁菌のホスファチジルイノシトールマンノシドについて.
結核, 51, 95, 1976.
4. 佐々木昭雄・立花キヨ・有馬 純: ガラス板法による結核菌リン脂質の血清反応 I. 実験条件の検討.
結核, 51, 95, 1976.
5. A. Sasaki and J. Arima: Phosphatidylinositol Oligomannosides in Some Actinomycetes and Related Organisms.
Jap. J. Tuberc., 20, 1, 1976.
6. 山本健一: 結核抗菌免疫, 特に BCG Cell Wall による実験を中心として.
結核, 51, 155, 1976. 結核, 51, 453, 1976.
7. 佐々木昭雄・有馬 純: 結核菌リン脂質の免疫化学的解析.
結核, 51, 217, 1976.
8. 永山能為・佐々木昭雄: ガラス板法による結核菌リン脂質の血清反応. 臨床成績-カオリン反応との比較.
結核, 51, 220, 1976.
9. 佐々木昭雄・有馬 純: ミコバクテリアとその近縁菌のリン脂質について.
結核, 51, 230, 1976.
10. 山本健一・柿沼光明・東 市郎・E. Ribi: BCG Cell Wall による肺 granuloma 形成機序と結核感染防禦能.
日本免疫学会総会記録, 第6巻, 286, 1976,
11. 有馬 純他: 函館で発生した肺非定型抗酸菌症について.
函医誌, 1(1), 10, 1977.
12. 山本健一: 感染免疫と生体防衛機構.
大原達編「免疫の科学」, 2, 461, 1977.
13. 酒井一郎・有馬 純: 化療後咳痰中結核菌の形態と増殖力の変動について.
結核, 52, 127, 1977.
14. 永山能為・佐々木昭雄: ガラス板法による結核菌リン脂質の血清反応.
結核, 52, 146, 1977.
15. 山本健一: 結核抗菌免疫における細胞性免疫の関与, 特にアセチル化牛血清アルブミンおよび BCG Cell Wall 感作マウスにおける特異抗原静注によるその解析.
結核, 52, 146, 1977.
16. 佐々木昭雄・有馬 純: ミコバクテリアおよび近縁菌のリン脂質について(続報).
結核, 52, 150, 1977.
17. 佐藤俊二・有馬 純他: 難治肺結核に対する EVM の治療成績および耐性の推移.
結核, 52, 164, 1977.
18. 佐々木昭雄・有馬 純: ミコバクテリアおよびこれらと近縁の菌のリン脂質について.
結核, 52, 207, 1977.
19. 永山能為・西出鬼一郎・柴田正弘・佐々木昭雄: ガラス板法による結核菌リン脂質の血清反応.
結核, 52, 207, 1977.
20. 大平昌好・久世彰彦・有馬 純: 結核菌薬剤耐性菌株の保存性について.
結核, 52, 208, 1977.
21. 有馬 純・小原裕光: エンヴィオマイシンの耐性実験.
結核, 52, 208, 1977.
22. 阿部政次・有馬 純他: われわれの経験した肺非定

型抗酸菌症の1例。

結核, 52, 208, 1977.

23. 川岸 朗・有馬 純: 臨床的, 組織学的に *Lupus vulgaris* の像を呈した非定型抗酸菌を分離した1例。
結核, 52, 208, 1977.

24. 山本健一: 結核抗菌免疫における細胞性免疫の関与, 特にアセチル化牛血清アルブミンおよび BCG Cell Wall 感作マウスにおける特異抗原静注によるその解析。

北大免研紀要, 37, 1, 1977.

25. 佐々木昭雄・立花キヨ・有馬 純: ホスファチジルイノシトールマンノシドの免疫化学的研究。プロピオンバクテリアのリン脂質について。

北大免研紀要, 37, 8, 1977.

血清学部門

1. 柿沼光明・大原 達・森川和雄・山本健一: LPS のアジュバント作用と肉芽腫形成。

日本免疫学会総会記録, 第6巻, 166, 1976.

2. 柿沼光明・岡田昌彦・山本健一: BCG 細胞壁によるマウス肺 Granuloma 形成の遺伝支配。

日本免疫学会総会記録, 第7巻, 341, 1977.

3. 柿沼光明: 肉芽腫形成および Adjuvant 作用物質。臨床免疫, 9, 354, 1977.

4. 大原 達: 免疫学序説。

免疫の科学, 第1巻, 文永堂, 1977.

5. 大原 達: 抗原抗体反応総論。

免疫の科学, 第1巻, 文永堂, 1977.

6. 大原 達: T細胞とB細胞。

免疫の科学, 第2巻, 文永堂, 1977.

7. 大原 達: 体液性抗体応答の細胞性機序。

免疫の科学, 第2巻, 文永堂, 1977.

化学部門

1. 外岡秀一・柿本七郎・佐々木昭雄: Methyl-4-aminonicotinate を含む NAD 類似体の合成及びそれを利用した Clitidine の合成。

日化秋季年会講演集, 35, II, 475, 1976.

2. 柿本七郎・山本健一: 複素環式化合物を含むテトラゾリウム塩の結核菌による還元について。

結核, 52, 177, 1977.

3. 外岡秀一・柿本七郎: NAD のイソニコチン酸ヒドラジット (INH)-及びイソニコチン酸 (INA)-類似化合物の合成。

北大免疫科学研究所紀要, 37, 14, 1977.

4. 外岡秀一・柿本七郎・Seydel, J. K.: INH の作用機序—“イソニコチン酸”説の実験的裏付けへの試み。

国立大附置研結核・胸部疾患談話会抄録集, 第29回, 9, 1977.

5. Shuichi Tonooka, Akio Sasaki and Shichiro Kakimoto: Enzymatic synthesis of Clitidine. Chemistry Letters, 1449, 1977.

6. Akio Furusaki, Takeshi Matsumoto and Isao Sekikawa: The molecular structure of 3-methyl-6-amino-1,2,4-triazin-5(2H)-one monohydrate. Chemistry Letters, 1231, 1977.

病理部門

1. 森川和雄・三村信輔: ウサギの接触型過敏症。

第35回実験結核研究会総会記録, 20, 1976.

2. BCG-CW のアジュバント活性における組織学的, 蛍光抗体法的解析。

昭和51年度日米医学協力計画報告書, 423, 1976.

3. Kazunori Onoé: Changes in histology of the regional lymph nodes and in the proportions of T and B cell populations by Oxazolone painting or LPS injection in guinea pigs.

Acta Pathol. Japon., 26, 671, 1976.

4. 奥山春枝他: BCG-CW adjuvant 作用の組織学的解析—w/o 型と o/w 型の比較。

Proc. Jap. Soc. Imm., 6, 178, 1976.

5. 三村信輔: Oxazolone による遅延型アレルギーに対するグリチルリチンの影響。

ミノファーゲン・レビュー, 9, 9, 1977.

6. 奥山春枝他: ウサギにおける Oxazolone 接触性皮膚過敏症と胸腺細胞。

北海医誌, 52, 282, 1977.

7. 森川和雄: アレルギー反応と類上皮細胞。

結核, 52, 208, 1977.

8. 奥山春枝他: BCG-Cell Wall の adjuvant 作用—所属リンパ節輸出管細胞及び脾の変化に及ぼす影響。

北大免研紀要, 37, 19, 1977.

9. 武田純子他: モルモット抗ウサギ胸腺細胞血清の細胞毒性試験における補体としてのモルモット血清及びウサギ血清の比較。

北大免研紀要, 37, 26, 1977.

10. 森川和雄他: ウサギの Oxazolone 接触アレルギー—皮膚反応, retest 反応の組織学。

日網会誌, 17, 127, 1977.

11. Kazuo Morikawa et al.: Histological studies on adjuvanticity of BCG-cell walls—Comparison

of adjuvanticity between o/w and w/o forms.
The 12th Joint Conference on Tuberculosis, Information, 178, 1977.

12. 森川和雄：過敏性反応。
大原達編「免疫の科学」, 2, 499, 1977.
13. 小野江和則・森川和雄：免疫組織と免疫担皮細胞。
大原達編「免疫の科学」, 2, 255, 1977.

生化学部門

1. 小幡文弥・坂井留女・塩川洋之：金属含有量の異なるコンカナバリンAの分別。
生化学, 48, 671, 1976.
2. 小野寺昌彦・塩川洋之：蛍光色素の蛋白質構造研究への応用。
化学の領域, 増刊114号, 71, 1976.
3. 小野寺昌彦・塩川洋之・関川 勲：蛍光性ハプテン, N-メチル-2-アニリノナフタレンスルホンアミドを用いた抗体結合部位構造の蛍光分光学的解析。
日本免疫学会総会記録, 6, 380, 1976.
4. Masahiko Onodera and Hiroyuki Shiokawa: Fluorescent Probes for Antibody Active Sites II. Further Studies on Two Groups of Anti-MANS Antibodies with Significantly Different Effects on MANSamide Fluorescence Produced by a Single Rabbit.
J. Biochem., 81, 891, 1977.

5. T. Itakura, S. Watanabe, H. Shiokawa and S. Kubo: Purification and Characterization of Acidic Adenylate Kinase in Porcine Heart.
Eur. J. Biochem. (in press, 1977)

6. 塩川洋之：抗体—免疫グロブリン。
大原達編「免疫の科学」, 1, 61, 1977.
7. 佐藤 昇・塩川洋之：ブタ骨格筋アデニレートキナーゼの免疫化学的研究。
生化学, 49, 826, 1977.
8. 小幡文弥・坂井留女・塩川洋之：金属結合数の異なるコンカナバリンA。
生化学, 49, 939, 1977.
9. 高沢俊英・塩川洋之：ブタ筋肉クレアチンキナーゼの精製と性質。
生化学, 49, 893, 1977.

附置免疫動物実験施設

1. H. Tamura, C. Ishihara, M. Sugamata and T. Miura: Japanese Encephalitis Virus Multiplication in the Regional Rabbit Ear Vein in the Early Viremic Period.
Acta Virol., 21, 87, 1977.
2. 石原智明：ウサギの鼻腔より分離されたマイコプラズマの性状について。
北大免研紀要, 37, 29, 1977.

文部省科学研究費その他配当記録

昭和52年度

1. 山本健一：科研特定研究「免疫応答の機構」, 研究課題「細胞性免疫反応の発現機構」, 分担課題「遅延型アレルギーの細胞学的研究」(課題番号211303).
2. 山本健一：厚生省, 日米医学協力計画結核専門部会研究費, 分担課題「結核の免疫に関する研究」.
3. 柿沼光明：科研特定研究「免疫応答の遺伝的統御に関する研究」, 分担課題「マウスイデオタイプ特異性の遺伝制御」(課題番号211307).
4. 森川和雄：科研特定研究「免疫応答を調節するア

ジュバントに関する基礎的研究」(代表者, 小谷尚三), 分担課題「アジュバントの作用機序—BCG-CW o/w と w/o の比較」(課題番号211318).

5. 森川和雄：科研一般研究B「近交系ウサギによる接触型過敏症の研究」(課題番号248149).
6. 森川和雄：厚生省, 日米医学協力計画結核専門部会研究費, 分担課題「BCG-CWのアジュバント作用」.
7. 塩川洋之：科研特定研究「免疫応答の機構—抗体の構造と活性発現の機序」(代表者, 小山次郎), 分担課題「抗体の活性部位の解析」(課題番号211302).